

立教大学学術推進特別重点資金 (立教SFR)
大学院生研究
2013年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学研究科	日本文学専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科・日本文学専攻・博士課程後期課程5年	Bjoerk Tove 印	
指導教員	所属・職名	氏名	
	立教大学文学部・准教授	水谷隆之 印	
自然・人文・社会の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 共同 名
研究課題名	享保期における歌舞伎の発展- 二代目市川団十郎の日記をもとに-		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2013 年度		
研究経費	(支出金額) 200千円 / (採択金額) 200千円		

<p>研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)</p> <p>江戸中期の歌舞伎役者・二代目市川団十郎の日記は、原本は火災によって焼失したものの、さまざまな写本が残されており、これらをもとに彼の日常生活の実態や性格的特性を明らかにし、彼が江戸中期の歌舞伎興隆にどのような役割を果たしたかを考察する。</p> <p>そのうえで、江戸時代の役者の社会的な意味を明確化するため、二代目団十郎が日記に記した舞台経営に関する記述や彼の性格と演出の関係を明確にする。</p>
--

<p>キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)</p> <p>[江戸歌舞伎] [近世文学] [日記研究]</p>
--

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

題目：享保期における江戸の歌舞伎—二代目市川団十郎を中心に—

本論文では江戸享保期の中心的歌舞伎役者・二代目市川団十郎に焦点を当て、享保期における江戸歌舞伎の発展について考察した。

第八代将軍徳川吉宗の改革によって享保期の社会は政治的経済的に不安定となったが、この時期、江戸の歌舞伎界には二つの大きな事件が起きた。ひとつは正徳4(1714)年、江島生島事件によって山村座が廃絶すると、以後中村座、市村座、森田座の江戸三座が定着したこと、もうひとつは享保19(1734)年8月に森田座が借金のために営業を休止、翌年これに代わり「控櫓」と呼ばれる臨時の営業許可によって河原崎座が旗揚げしたことである。この二つの事件によって、経済を集中する力を持った江戸歌舞伎劇場を中心とする経済構造が成立し、役者ら劇場関係者だけでなく、広く関連業者の生活を支える基盤となった。

江戸歌舞伎に関する研究は近世初期から元禄期、および宝暦期以降の二つに大きく別れているが、その間にある享保期については残された資料が少ないために、不明なところがいまだ多い。そんななか、享保期について記述されていながら、これまで十分に注目されてこなかった資料として、二代目市川団十郎の日記を挙げるができる。

本研究では守屋毅氏が紹介する歴史的演劇研究へのアプローチを用いて団十郎の日記を読み解いた。氏は舞台芸能の歴史的研究を〈環境論〉と〈芸能論〉の二種類に分け、舞台興行を可能とする環境(劇場の経済や関係者の力関係など)について明らかにする一方、その舞台上で行なわれる劇の内容と意義を分析するし、いずれも演劇の社会的役割の解明に繋がる指摘する。

第一部〈劇場の環境〉では享保期の劇場はどのように経営されたか、享保期の歌舞伎劇場はいかにして近現代まで運営を継続することができたか、歌舞伎興行は誰の役に立ったか、といった劇場をとりまく環境について第1~3章で考察し、第二部〈役者の演出〉では享保期にはどのような演出が行なわれたか、なぜ二代目団十郎の演出が当時の観客に好評をもって迎えられたのかについて第4~6章で考察する。

享保期における江戸の歌舞伎—二代目市川団十郎を中心に—

目次

第一部 享保期歌舞伎の環境 4

第1章 享保十九年の江戸歌舞伎—二代目市川団十郎と劇場経営—

第2章 森田座の休座と河原崎座旗揚げ—二代目団十郎の関与—

第3章 享保期の芝居茶屋と観客—二代目団十郎との関係—

第二部 享保期歌舞伎の演出の種々相

第4章 二代目団十郎と江戸の開帳興行—不動明王の演出を中心に—

第5章 二代目団十郎の宣伝と演出—もぐさ売りやせりふ正本を中心に—

第6章 享保期歌舞伎における喫煙の演出—二代目団十郎演じる助六を中心に—

さらに2013年度中は第1章の「享保十九年の江戸歌舞伎—二代目市川団十郎と劇場経営—」を英訳して提出(Japonica Humboldtiana 第16号及びAndon 第95号)、第4章の「二代目団十郎と江戸の開帳興行—不動明王の演出を中心に—」(大衆文化第9号)および第5章の「二代目団十郎の宣伝と演出—もぐさ売りやせりふ正本を中心に—」(「歌舞伎- 研究と批評」第52号)を研究論文としてまとめて、提出した。

研究成果の概要 つづき

※この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

「二代目団十郎と江戸の開帳興行－不動明王を中心に－」江戸川乱歩記念館研究紀要「大衆文化」9号、2013年9月、30～48頁

The economic structure of the Edo Kabuki theaters and Ichikawa Danjûrô II as a Kyôhō-time manager、ベルリン・フンボルト大学日本学研究紀要 Japonica Humboldtiana 第16号、2013年7月提出 (2014年度中出版予定)

Edo Kabuki and Money、日本美術国際協会紀要 Andon 第95号、2013年8月提出 (2014年度中出版予定)

「二代目市川団十郎の宣伝活動－もぐさ売り初演やせりふ正本を中心に－」歌舞伎学会紀要「歌舞伎－研究と批評」第52号、2013年7月提出 (2014年度中出版予定)